

宮崎大学 第89回イブニングセミナー

東アジアの中のみやさき

—教育・言語・歴史から多様性を見つめ直す



【報告者】

小柴裕子 (多言語多文化教育研究センター)

金 智賢 (多言語多文化教育研究センター)

関 周一 (教育学部社会科教育講座)

【コーディネーター】

中村佳文 (教育学部国語教育講座)

日時：2024年3月1日 (金) 17:30-19:00

場所：宮崎大学創立330記念交流会館
コンベンションホール

(Teamsウェビナーで同時配信)

申込方法：QRコードからお申込みください



お問い合わせ：宮崎大学研究推進課総務係
E-mail:ken-somu@of.miyazaki-u.ac.jp
Tel:0985-58-2882

宮崎
みやさき
Miyazaki
미야자키

【報告テーマ・概要】

1. 「お話でつながる世界を考える～複言語教育の視点から～」

小柴裕子

世界には、たくさんの神話・昔話・民話があります。私たちは、そのようなお話から、生き方や考え方の知恵を受け取り、次世代に引き継いでいます。さらにお話を通じ、私たちは、時間という縦軸のほかにも、世界という横軸でつながっています。この多元的なつながりを意識することは、個人の中にある複言語・複文化能力を育てていくことにもつながります。今回は、複言語教育の視点から、留学生の母国に伝わるお話を通じ、世界という横軸のつながりを考えます。

2. 「言語の比較から分かること―日韓対照言語学の方法と意義―」

金 智賢

対照言語学とは、二つまたはそれ以上の言語を比べ合わせ、その相違点や共通点を分析することで各言語の特徴を解明しようとする言語学の一分野です。今回は、特に私の専門分野である構文論的な日韓対照言語学の観点から、これまで分析されてきたいくつかの言語現象を取り上げたいと思います。例えば、「ボクはウナギです」という表現は、一見色々な言語に存在しているように見えるものの、綿密に対照分析すると日本語特有のものと分かり、この一文には日本語文の構造的な特徴が凝縮されていると言えます。本発表では、日本語と韓国語、または英語や中国語など異なる構造を有する言語同士を対照分析することで何が分かるか、その意義は何かなどについて、具体的な例を挙げながらお話します。

3. 「都城の唐人町(とうじんまち)とアジア」

関 周一

戦国時代から江戸時代初期(16世紀後半から17世紀前半)にかけて、九州の各地に「唐人町(とうじんまち)」が成立し、日本人と異国人とが雑居する(諸民族雑居)という状況が現出しました。セミナーでは、都城(日向国)の唐人町をとりあげ、その歴史と今日に残る痕跡について紹介します。

次に交通や流通の視点から、唐人町が生まれる背景を考察します。遣明船、後期倭寇(中国人海商)・ポルトガル人の渡来と鉄砲伝来などを取り上げ、南九州、特に宮崎(日向国)のアジアにおける位置づけを明らかにしたいと考えています。